

Ⅱ - 1 軽度記憶障害を有する者に対する メモリーノートブック訓練

○高橋 美保¹⁾ 後藤 祐之¹⁾ 田谷 勝夫¹⁾

1. はじめに 頭部外傷による記憶障害を主訴として当センターの職業講習を受講したケースに対し、補償手段として手帳を使用する習慣を形成するためメモリーノートブック訓練を行った。

2. 対象 26歳男性。1990年8月交通事故により受障。多発性脳挫傷、小脳失調、痙性歩行、記銘力障害。障害名は頭部外傷による四肢体幹機能障害(2級)。退院後、県の福祉センター、障害者職業訓練校を経て94年11月第3セクターのM社に就職するも職務遂行上の問題により95年10月休職。96年1月当センター来所。

3. 神経心理学的所見 WAIS-R FIQ94 (VIQ 86, PIQ94). Kohs 立方体 131点 (IQ124.5), Benton 視覚記銘力検査 即時正8誤3 遅延正5誤8. 遅延記銘 (浜松式) 5分後再生数1. 三宅式記銘力検査 有関係5-9-9 無関係0-1-(6).

4. 方法 A. 記入方法の訓練 [導入: 1日] ノートの目的、構成等の説明。[習得訓練: 2週間] 与えられた記入課題を、ノートの4つのセクション(カレンダー、今日の予定、今日中にすること、近日中にすること)に内容に応じて記入し分ける訓練。セッション4回目よりロールプレイを実施した。[応用訓練: 1週] 毎セッション1題、複数の達成課題を含んだ指示を出した。[ノート利

用の評価: 4週] 施設内での自発的なノート利用の有無、状況を観察した。B. ノート参照習慣の獲得訓練(習得訓練と併せて実施) 一日数回任意の時刻を設定したボイスタイマーを携帯させ、音声で cue を出したらノートを開き、所定の欄に時刻を記入するよう指示した。

5. 結果 [習得訓練] 評価は記入内容と記入箇所に分けて行った。各セッションの課題全てが適切に記入されれば正答率100%とした。記入内容はセッション3回目で100%に達し、記入箇所はロールプレイの導入後正答率が上昇し、7回目に100%となった。

6. まとめ 軽度の記憶障害を持つ在職中の者に対してメモリーノートブック訓練を行った。入所当初はメモをとる行動が全くみられなかったが、約2週間で記入方法と参照する習慣を獲得し、施設内での日常的なスケジュール管理に利用することが可能となった。記入方法の習得にはロールプレイが有効であり、参照する習慣の形成にはアラーム利用の他、日々のスケジュールを毎日ノートに記入させたことも効果があった。本ケースは現在復職しており、ノート利用の状況については経過を観察中である。

1) 障害者職業総合センター